

第59回社会福祉セミナー 講座②

海外との比較で考える「攻めの福祉」の可能性

2023年7月9日（日） 10:00～12:30 オンライン開催

コーディネーター 木下武徳（立教大学コミュニティ福祉学部教授）

1

社会福祉における申請主義

- ①申請主義とは
- ②社会福祉における申請主義の展開
- ③申請主義のジレンマ

2

本講座の趣旨と内容

- ①テーマ
- ②取り上げる国と報告者

申請主義とは何か？

・ 申請主義 (デジタル大辞泉より)

① 申請 = 希望や要望事項を願い出ること。

特に、国や公共機関などに対して認可・許可その他一定の行為を求めること。

② 主義 = 1) 持ちつづけている考え・方針・態度など。

2) 思想・学説・芸術理論などにおける一定の立場。

・ 社会福祉における申請主義

① 肯定的な捉え方

国民・市民の申請に基づき福祉サービスが利用できること

② 否定的な捉え方

国民・市民による適切な申請がなければ福祉サービスが利用できないこと

⇒ より深刻な問題を抱えた人等が福祉サービスを利用できない！？

社会福祉における 申請主義の展開

• 戦前の社会福祉（社会事業）

職権による救済・・・権利性なし（反射的利益）

（措置制度） → 申請権なし（救済を要求する権利なし）

• 戦後の社会福祉

1) 新生活保護法・・・職権から申請権への転換 ← 憲法25条

福祉サービス・・・措置制度＝行政処分（反射的利益）

2) 社会福祉法・・・行政の措置制度から民間の契約方式へ転換

⇒ 福祉サービスは事業者と利用者の契約による ← 準市場化・多元化

- 申請主義のメリット ⇔ 職権主義と対比して
 - **福祉サービス**の利用を求めることができる ← 権利性の拡大
 - 自己決定、選択の自由を保障する
- 申請主義のデメリット
 - 本来なら利用すべき **福祉サービス**が利用できないことがある
 - 1) **福祉サービス**の情報を知らない
 - 2) 窓口移動・意思疎通等が困難、必要書類の入手・作成等が困難
 - 3) スティグマ、恥意識、周囲からの非難・レッテル

本講座の趣旨と内容

- テーマ：海外との比較で考える「攻めの福祉」の可能性
⇒海外では申請主義はどうなっているのだろうか？
申請主義のデメリットを克服するためにどのように支援しているのか？
- 本講座で取り上げる国とその報告者（1人25分程度の報告）
 - ①カナダ：二木泉氏 トロント大学大学院社会学部博士課程、
オンタリオ州認定ソーシャルワーカー
 - ②イギリス：日野原由未氏 岩手県立大学社会福祉学部准教授
 - ③フランス：佐藤順子氏 佛教大学専門職キャリアサポートセンター専任講師
- 報告後、論点整理・まとめ（10分）、質疑・討論（30分）、総括（10分）
⇒12時30分 終了予定

報告の大まかな枠組み

- ・国によって、前提や制度等が異なるので、
報告に際して大まかな枠組みを共有

- 1) 各国の社会福祉の基本的な特徴
- 2) 申請主義の状況
- 3) 申請を支援したり、促す取り組み
 - ①制度的な取り組み
 - ②相談窓口や専門職の配置、アウトリーチ
 - ③ソーシャルワークの位置づけ等